



共同国際文理専攻（仮称）に関するアンケート

大学院・後期3年間の博士課程

このアンケートは、東京外国語大学、東京農工大学、電気通信大学の3大学の卒業生が在籍する組織・企業の皆様にご協力いただき、3大学が共同して新しく作る共同国際文理専攻に対するご感想やご期待を伺うものです。本専攻をより有意義なものにするために、また、時代になかった文理協働の人材を養成したいという3大学の挑戦を後押ししていただくためにも、是非ともみなさまのご協力をお願い申し上げます。なお、アンケート結果は統計資料としてのみ利用します。この目的以外に利用することはありません。

共同国際文理専攻（仮称・平成31年度設置予定）は、東京外国語大学、東京農工大学、電気通信大学の3大学が結集し、新しい時代を見据えて構想した共同の新専攻です。その目的は、学生の専門性を重視しつつ、人文社会科学・理工学・農学を俯瞰でき協働の視点を持った実践的グローバル人材の育成にあります。

共同国際文理専攻（仮称）は、3大学が、それぞれの強みを基礎に、近接する立地の好条件を活かして準備を進めてきた次世代の高度教育の構想です。

■ 3大学の強み

東京外国語大学・・・言語・リベラルアーツと地域研究の研究教育力
東京農工大学・・・食料・エネルギー・ライフサイエンス分野の研究力と技術力
電気通信大学・・・情報・通信（ICT）、人工知能・ロボティクス、光工学分野の研究力と技術力

■ 専攻のご紹介

共同国際文理専攻（仮称）は、3大学が協働してカリキュラムを運営し、指導を行います。後期3年間の博士課程で、学生は、東京外国語大学、東京農工大学、電気通信大学のいずれかの大学が本籍校となります。

社会人入学者のための制度（休日や夜間を利用した講義の実施、長期履修制度等）も充実させる予定です。

教育研究組織：3大学による共同専攻
（東京外国語大学 東京農工大学 電気通信大学）
専攻名：共同国際文理専攻（仮称）

（共同国際文理専攻（仮称）設置の趣旨と背景は資料1頁の図をご参照ください。）

■ 学位

博士（学術）

■ 養成する人材像

複雑化するグローバル社会においては、実際の社会課題の解決には、異分野連携、特に文理協働といった統合的なアプローチが重要かつ不可欠です。昨今は、産業界からも地球規模の課題を分野横断型の発想で解決できる

人材が求められており、理工系専攻であっても、人文社会科学を含む幅広い分野の科目を学ぶことや、人文社会科学系専攻であっても、先端技術に深い関心を持ち、理数系の基礎的知識を身につけることの必要性が示されており、この専攻は、それぞれの専門性に軸足を置き、異なる分野の研究成果を融合しイノベーションを生み出す実践的グローバル人材を養成します。

すなわち

1 人文社会科学分野におけるニーズ指向の課題設定力	を併せ持つ人材です。
2 理工系科学技術分野におけるニーズ指向の問題解決力	

具体的には、

高度な専門性を基盤にしつつ、論理的思考力とコミュニケーション能力を持って、複眼視点から現代社会の情勢を把握し、解決すべき課題を的確に理解するとともに、文理協働の専攻ならではの分野横断型の発想によって、食料・生命、エネルギー・資源・環境、ICT・人工知能、医療・福祉・健康などの専門分野において、効果的かつ有効な戦略やシステムを立案設計し、かつ国際チームを牽引、チーム運営ができる人材です。

(養成する人材像のイメージは資料 2 頁の図をご参照ください。)

■教育の特色

3 大学の教員による共同指導体制により、自分の専門分野に軸足を置きながら、異分野の研究成果を融合する力、そしてその結果イノベーションの触媒的な役割を果たせるようなこれまでにない、学際的な教育を展開します。

また、学生は本籍校の主旨導教員の下で専門分野の教育を受けるとともに、本籍校以外の 2 大学の副指導教員からも教育を受けます。

教育スキームとしては、

理系学生に対しては、国際社会で活躍できる公益性・実践性思考の優れた能力	の育成に注力します。
文系学生に対しては、エビデンスに基づいて自分の研究をコンテキスト化する能力	
文系・理系双方の学生に対しては、文理協働型のケーススタディとファシリテーションを基盤とした実践的能力	

(カリキュラムの具体的な内容は資料 3 から 6 頁の図をご参照ください。)

■専門分野

各大学からの専門分野（予定）は以下のとおりです。

東京外国語大学	東京農工大学	電気通信大学
地域動態論、グローバルスタディーズ、表象文化論 等を具体例とする人文・社会科学分野の研究	国際農業開発、生物資源機能学、エネルギー、生体医用システム等を具体例とする理工農系分野の研究	社会情報システム、情報通信ネットワーク工学、計測・制御、光工学等を具体例とする理工系分野の研究

■設置

平成 31 年度（2019 年度）予定

▼ アンケート（該当するものに、○をお付けください。）

1-1. 貴機関の業種を教えてください。（日本標準産業分類項目一覧・中分類より）

- ①農業、林業 ②漁業 ③鉱業、採石業、砂利採取業 ④建設業 ⑤製造業
- ⑥電気・ガス・熱供給・水道業 ⑦情報通信業 ⑧運輸業、郵便業 ⑨卸売業、小売業
- ⑩金融業、保険業 ⑪不動産業、物品賃貸業 ⑫学術研究、専門・技術サービス業
- ⑬宿泊業、飲食サービス業 ⑭生活関連サービス業、娯楽業 ⑮教育、学習支援業
- ⑯医療、福祉 ⑰複合サービス業 ⑱サービス業（他に分類されないもの） ⑲公務 ⑳その他

1-2. 貴機関の従業員数についてお伺いします。（ 人）

1-3. 貴機関において海外に拠点を置かれているかについてお伺いします。

- ①置いている
- ②今後、置く予定である

2. 貴機関において、自分とは異なる専門分野の人材との連携・調整業務を遂行できる実践的能力を備えた文理協働型の人材のニーズについてお伺いします。

- ①大いにニーズがある
- ②ある程度ニーズがある
- ③ニーズがない
- ④その他（ ）

3. 文理協働型人材育成のための博士課程の必要性についてお伺いします。

- ①是非とも必要である
- ②必要である
- ③必要でない

4. 貴機関における共同国際文理専攻（仮称）を修了した学生の採用の可能性について、お考えを教えてください。

- ①是非採用したい
- ②採用する可能性はある
- ③採用するつもりはない
- ④その他（ ）

3. あなたが現在学んでいる専門分野、または将来学ぼうとしている専門分野を教えてください。

現在学んでいる分野 _____ 将来学ぼうとしている分野 _____

4. 上述したような三大学による共同国際文理解専攻（仮称）に興味がありますか。

- ① 大変興味がある
- ② 興味がある
- ③ どちらかと言えば興味がない
- ④ 興味がない

5. 三大学による共同国際文理解専攻（仮称）に進学したいですか。

- ① 強く希望する
- ② 希望する
- ③ どちらかと言えば希望しない
- ④ 希望しない

6. 東京外国語大学の学生にお聞きします。東京外国語大学の教員があなたの主指導教員となつたうえで、さらに東京農工大学や電気通信大学の教員が副指導教員となって、多面的な指導を受けるというあり方は、あなたの能力を伸ばすうえで有益であると考えますか。（注意：所属大学により文中の大学名は変更する）

- ① 強くそう思う
 - ② そう思う
 - ③ どちらかと言えばそう思わない
 - ④ そう思わない
- ①から④それぞれ回答された方へ、何故そう思われるのか理由を教えてください。（自由記述）

7. 東京外国語大学の学生にお聞きします。東京農工大学や電気通信大学で教授されている専門分野のうち、ご自身の専門分野と親和的と考えられるものを選んでください（複数回答可）（注意：所属大学により①～⑨の専門分野を変更する）

- ① 地域動態論

- ②グローバルスタディーズ
- ③表象文化論
- ④国際農業開発
- ⑤生物資源機能化学
- ⑥エネルギー
- ⑦生体医用システム
- ⑧その他 ()

8. 将来、海外で就職することや、海外との密接なコミュニケーションを必要とする職業（企業における国際担当部署等）に就くことを希望していますか。

- ①強く希望している
- ②希望している
- ③どちらかと言えば希望していない
- ④希望していない

9. もしあなたがこの共同国際文理解専攻（仮称）に進んだ後、就職するとすれば、将来の仕事として次のどの分野に興味がありますか。（複数回答可）

- ①国連等の国際機関（例：UNICEF、UNHCR、FAO、WFP等の国連機関、世界銀行）や外務省
- ②政府系開発援助機関、国際NGOや開発コンサルタント
（例：JICA、FACID等の国際開発援助機関、NPO、NGO、民間コンサルタント会社）
- ③ISO等の国際認証機関（例：ISO、GAP、HACCP等の国際認証機関）
- ④国内又は海外の企業等（例：民間企業の国際担当、技術開発、新規事業部門等）
- ⑤国内又は海外の大学・研究機関等の研究者等

10. その他、ご意見や共同国際文理解専攻（仮称）で取り組んで欲しいことがありましたらご自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。